

《平成 28 年度 留学生歌舞伎鑑賞会を実施しました》

(1)日 時：平成 28 年 6 月 17 日（金）

18：00～ 21：30

(2)内 容：『新皿屋舗月雨暈一魚屋宗五郎』鑑賞

※解説（日本語、英語、中国語、韓国語）付き

(3)会 場：国立劇場 大劇場（東京都千代田区隼町 4-1）

(4)参加費用：参加料金は本協会にて負担しました。

(5)参加人数：33 名

※中国：5 名、台湾：4 名、インド：2 名、韓国：2 名、スペイン：2 名、スリランカ：2 名、タイ：2 名、フィリピン：2 名、アメリカ：1 名、アルジェリア：1 名、イタリア：1 名、ガーナ：1 名、セルビア：1 名、ドイツ：1 名、トルコ：1 名、ネパール：1 名、パキスタン：1 名、ベトナム：1 名、ミャンマー：1 名、ルーマニア：1 名

(6)実施状況：

第 1 幕の「歌舞伎の見方」では、歌舞伎役者の中村萬太郎氏と英語ガイド担当の木佐彩子フリーアナウンサーの解説のもと、歌舞伎の基本となる音楽、動作、また舞台装置について解説が行われました。

はじめに、役者の演技に合わせて、動作や物音を強調する「ツケ」について紹介され、登場人物や状況に応じて、「ツケ」が異なる事から、その例として歌舞伎役者が男女の歩き方を実演し、その歩き方に合った「ツケ」が演奏されました。続いて「見得」と大太鼓の演奏について解説が行われ、ドイツとノルウェーの留学生が、舞台にあがり、「見得」と大太鼓の演奏に挑戦しました。留学生は緊張している様子だったが、歌舞伎役者の指導を受けながらツケに合わせて見事に「見得」を決め、会場から温かい拍手が送られました。また、大太鼓演奏では、演奏者から指導を受けながら、太鼓を叩くリズムや音の高さを調整することで、雨と雪が降る様子を表現した。留学生は、自然の様々な情景を 1 つの楽器で表現できる事に感心している様子でした。

第 2 幕では、「新皿屋舗月雨暈一魚屋宗五郎」の一部が上演され、魚屋宗五郎が、ツケに合わせて酒を飲む仕草や家族が必死になって宗五郎の飲酒を引き留めようとする場面は、コミカルに演じられており、客席から笑い声が聞こえてきました。

今回の鑑賞会の座席は、花道が目の前だったため歌舞伎役者の迫力ある演技を間近でみる事が出



来、留学生はその演技に魅了されている様子でした。

鑑賞会終了後、参加者からは、「解説の見方が分かりやすかった」、「日本の文化についてもっと知りたくなった」という声が聞かれ、留学生の日本文化へ関心が高まったようです。